

日本NGO連携無償資金協力申請書

2. 事業の目的と概要	
(1) 上位目標	対象地域の中等学校にジェンダー平等を浸透させ、より多くの女子が改善された環境で中等教育を受けられるようになる。
(2) 事業の必要性(背景)	ラオスはミャンマーと並びインドシナ半島における最貧国である。近年、主に外国資本による経済成長が続けているものの、富は都市部の富裕層に限られ、農村部にはその恩恵が届かず、貧富の差が開いている。 当事業の対象地、パウドン郡はボケオ県内最大面積の郡であるが、73の村のうち54村は政府から最貧に区分されており、県内で最も貧しい郡である。その背景には山岳部が多く厳しい地理環境であることや、人口約3万7千人のうち80%が少数民族クム族に属し、公用語であるラオ語（主要民族ラオ族の言葉）を解さないことが挙げられる。行政による援助は極めて少なく、現地で活動しているNGOも当団体だけとなっており、取り残された地域になっている。 <u>中等教育</u> ラオスの教育分野においては、国連機関やNGOによる支援によって初等教育（4年間）改善とジェンダー平等への啓発・促進の取り組みが行われ、この10年で純就学率は男子が97%、女子は95%まで向上した。しかし、中等教育（前期4年間、後期3年間 合計7年間）の就学率は、男子が43%、女子が40%と、初等教育と比較すると低い水準になっている。パウドン郡は73の村からなり、人口は約3万7千人であるのに対し、中等学校は10校しかない。そのうち6校は前期中等教育のクラスしかない。後期中等教育を受けられる学校は4校しかなく、そのうち2校には7年生のクラスがない。よって7年間の中等教育を通して受けられる学校は郡に2校だけである。子どもに教育を受けさせることの重要性を理解する親が少しずつ増えたため入学希望者は増えているものの、教室、学生寮など基本的なインフラが不足しているため、入学希望者全員を受け入れられない状況にある 第1期支援対象校のひとつ、パーカッド中学校では3棟ある学生寮は満員で、多くの生徒は親たちが協力して学校敷地内に建てた竹製の小屋や敷地外の借家で暮らしている。トイレ設備も足りない上、学生寮から離れたところに設置されている。給水設備は山から湧水を引いてきたものが存在するが、老朽化のため機能していない。授業が終わると寮生たちは山で食材を調達し、竹製の小屋の一角で火を使って自分の食事を用意する。学校施設が整備されておらず、衛生面・安全面の配慮が足りていない状況にある。 <u>ジェンダー</u> パウドン郡では伝統的慣習が重んじられることが多く、ジェンダーにおいても男子を優遇する文化が根強く、男子に比べ女子はあらゆる場面で権利や機会に恵まれない傾向にある。 女子の教育は初等教育修了までで十分と考えられており、女子は初

日本N G O連携無償資金協力申請書

	等教育修了後、進学よりも家事労働への従事、もしくは、結婚することを期待される。現在のラオスの教育制度のもとでは、結婚した生徒に就学が許されていないため、結婚＝退学となる。その結果、中等学校に通う女子の数は男子より少なく、それは学年が高くなるほど顕著になっている。 一方進級率を見ると、ほとんどの学校、学年で女子が男子を上回っている。毎年試験に合格して進級できる割合は女子の方が多く、就学機会さえ得られれば、必ずしも女子が学力で男子に劣るわけではないことがわかる。 しかし、進学できた女子であっても、通学を阻み、中途退学を選ばざるを得ない要因が多くある。第一に、学校施設の未整備が挙げられる。思春期を迎え、心身ともに変化する女子、特に親元を離れて寮生活を送る生徒にとって、学校に衛生的なトイレや給水設備がないことは非常に苦痛である。また、男子生徒によるいじめや冷やかしのといった様々な形での暴力、教師や親による差別的な扱いも、勉強を続けたい女子生徒にとって大きな悩みやストレスとなっている。しかし、その悩みを打ち明け、相談できる相手はおらず、現在の女子生徒たちは悲惨な状況に置かれている。 また、現在郡が使っている学校開発計画の指針にはジェンダーにかかる記述がほとんどなく、このことが各校でジェンダー平等促進への取り組みが行われない一因になっている。 当事業は女子の中等教育支援を目的として実施することから、外務省の国別援助方針3. 重点分野（注目標）（3）「教育環境と人材育成」に合致する。 また、現地教育スポーツ省にとって中等教育の場でのジェンダー平等促進の取り組みは当事業が初めてとなる。首都ビエンチャンで教育スポーツ省中等教育局長と面談した際にラオスの状況にあったトレーニングツールの開発や現場教師の育成に大きな期待が寄せられ、教師のトレーニング参加への理解や協力の意向が示された。 当団体は、当事業の提携団体であるプラン・インターナショナル・ラオスと連携し、2010年からパウドン郡を含むボケオ県において教育、保健分野を中心とした開発支援を行っている。教育分野ではおもに初等教育と就学前教育の質向上を目的とした事業で多くの経験、実績を積んできており、その経験を当事業においても十分に活かすことができる。
(3) 事業内容	前述の状況を改善するため、当事業では、中等学校においてよりジェンダーに配慮した教育環境を整備するとともに、中等学校の教師、生徒、地域住民に対してジェンダー平等を促進するための能力強化を行う。対象はパウドン郡に存在する中等学校10校すべてとする。

日本NGO連携無償資金協力申請書

第1期では、ジェンダー平等に関する基本的な知識を学び、地域で女子への差別が当然のように行われていないか考える機会を提供する。各校から2名ずつジェンダー担当教師を選び、その教師が中心となって各校で活動を展開する。また、ジェンダーについて悩みを持つ生徒が拠りどころとできる通報・相談窓口を設置する。また、生徒が自ら活動を企画・実施したり、自分たちの声を発信したりする能力を育成するため、日本の生徒会に近い「子どもクラブ」の発足を支援する。第1期は10校のうち5校で先行して実施する。

第2、3期は、第1期で上記の活動を実施した5校では、内容を深めたトレーニングを継続し、教師のジェンダー問題対応能力を高める。新たに対象とする5校においては、第1期同様のトレーニングを行う。子どもクラブについては、他の村の子どもクラブと交流する機会を設ける。また、子どもクラブ代表は3月の国際女性の日イベントに参加して、生徒によるジェンダー平等促進のための活動を行う。国際女性の日はラオスの祝日で、このイベントは毎年郡主催で行われている。たくさんの市民が集まって歌や踊りを通してジェンダー平等を促進するものであるが、一過性のお祭りに留まっている。

なお、予定している活動詳細は、以下のとおり。

(ア) 教育環境の改善（第1－3期 各期対象1校）

- ・調理スペースを備えた学生寮（男女別各1棟）の建設
- ・男女別トイレ各1棟の建設
- ・給水設備の設置

* 既存の寮も修繕が必要な部分を学校や現地行政と協議して第2期以降の活動に加える可能性がある。

・上記施設の維持管理および学生寮運営トレーニング

建設工事には、学校やPTAが参加し、工事の進捗確認や建設資材運搬、建設地の整地など熟練技術の要らない作業に労働力を提供する。完成後は、施設の維持管理や寮の運営方法のトレーニングを行う。これは既存の学生寮などにも適用させ、施設の運営や維持・衛生管理方法の改善を進める。

学生をどの宿舎（新築の学生寮、既存の学生寮、小屋のいずれか）に入れるかは、教育省と学校の現行の基準に則って学校の寮管理委員会（教師、PTA、生徒、村の代表）が決定する。生徒の希望のほか1）年齢が低い 2）障がいがある 3）貧困世帯 という点を配慮する。宿舎の割り当ては翌年度の新入生の数が決定した後に、寮管理委員会が毎年検討する。その際には在校生の移動希望も同時に募り、話し合いの上で決定する。それによって公平性を保つ。

(イ) ジェンダー平等促進・人材育成（第1－3期）

・教師対象ジェンダートレーニング

各対象校が選ぶ2人のジェンダー担当教師を対象にトレーニングを行い、ジェンダー平等について基礎から学び、日々教育現場で実践できるようにする。この担当教師が、指導者となり各校で全

日本NGO連携無償資金協力申請書

教師に対して同様のトレーニングを実施する。

・PTA対象ジェンダートレーニング

生徒の親を含む地域住民に対して同様のトレーニングを行う。ここでは育児や家庭で子どもと接する際の言動にジェンダー平等の意識が定着することを目指す。

・通報・相談窓口の設置・運営

対象10校にジェンダーに関する悩みを持つ生徒をはじめ、地域住民が気付いたことを通報する相談窓口を設置する。各校のジェンダー担当教師が窓口となり、適切な対応を行う。また通報された内容は記録され、定期的に当団体に報告される。

・教師対象子どもクラブ設置トレーニング

ジェンダー担当教師を対象に子どもクラブ設立準備から企画、運営指導の仕方をトレーニングする。

・子どもクラブリーダー対象クラブ運営トレーニング

ジェンダー担当教師は、上記トレーニングで学んだジェンダー平等についての知識を生徒とも共有する。生徒が自発性や発言力を育みながらジェンダー平等促進の活動を行う機会とするため、対象10校の学年ごとに子どもクラブを設立する。子どもクラブは毎月活動を行う。

・子どもクラブワークショップ実施（第2－3期のみ）

対象10校で活動する子どもクラブから代表が集まって他の村の子どもクラブと交流する機会を提供する。ワークショップでは各クラブからの発表や情報交換を通して生徒が学びあい、自分たちのクラブの活動を活性化することが期待される。学校を地域でグループ分けし、郡内3か所で行う予定。

・国際女性の日イベントへの参加（第2－3期のみ）

3月8日の国際女性の日にはパウドン郡政府が記念イベントを行う。当事業は、このイベントを地域住民のジェンダー平等に関する理解を深め、政府へ提言を行う場として活用する。地域でジェンダー平等を促進するために生徒たちが考えたことや政府への要望を子どもクラブ代表が発表する。

（ウ）学校開発計画策定・教育・スポーツ省との連携促進（第1－3期）

・学校開発計画策定教師対象トレーニング

郡教育・スポーツ省と連携して上記（イ）の教師対象ジェンダートレーニングの一部として開発計画策定を扱い、ジェンダー平等への取り組みが各校の計画に含まれるように支援する。

・教育・スポーツ省による現地視察（第2－3期）

教育・スポーツ省職員に期に1度、対象校を視察する機会を提供

日本NGO連携無償資金協力申請書

	し、当事業による変化を認知してもらい、ジェンダー平等への取り組みが学校開発計画に取り込まれ、教育の現場で行われるよう促進する。
(4) 持続発展性	施設の維持や管理の方法について、教師、PTA、生徒へのトレーニングを徹底することで事業終了後も施設がよい状態で使用されるようにする。新学期には新入生に対して使用や維持管理についてトレーニングを行う。ジェンダー平等、女子教育や女子の権利への理解促進には時間がかかるが、学校教師、PTA、生徒を対象に3年にわたり、それぞれのグループの能力強化を行うことで徐々に行動変容をもたらし、意識の定着を図る。指導力を身につけたジェンダー担当教師は、新入生を含む全生徒対象のトレーニングを継続、子どもクラブ活動の運営を通して生徒たちの企画・運営能力、発言・発信能力を育成する。 連携団体であるプラン・インターナショナル・ラオスは教育・スポーツ省の「ジェンダー、インクルージョン、ダイバーシティ検討委員会（教育の場でのあらゆる差別をなくすための検討委員会）」のメンバーであり、郡教育・スポーツ省と良好な関係を築いている。当事業では省職員が同席する教師やPTA対象のトレーニングなど、多くの機会をとらえて行政への提案も行うことでジェンダー平等への取り組みが学校開発計画に取り込まれるなど、ジェンダー平等の促進を目指す。
(5) 期待される成果と成果を測る指標	1. 建設対象の3校に通う生徒がジェンダーに配慮した教育施設を使えるようになる。学校は施設の維持管理方法を身に着ける。 指標： ・対象校生徒の80%が教育環境にジェンダー視点が取り込まれたことを実感する。（第2, 3期） ・教師（計55人）、PTAの70%が施設の維持管理トレーニングの事後テストで80%の正解率を示す（第1-3期） 確認方法：トレーニング事後テスト、定期学校視察、生徒からの聞き取りなど 2. 対象10校で教師（約250人）やPTAがジェンダー平等の意識を日常に取り入れ、生徒が積極的に参加するジェンダー平等の促進の取り組みが行われる。 指標： ・教師の80%以上がジェンダー平等を理解し、ジェンダー理解度調査で改善が認められる（第1-3期）。 確認方法：授業視察、ジェンダー理解度調査、教師・生徒からの聞き取り ・通報・相談窓口の活用が奨励され、每期5件通報・相談実績が記録される（第2, 3期） 確認方法：定期学校視察、通報・相談記録生徒からの聞き取り

日本N G O連携無償資金協力申請書

	・対象１０校で計 104 の子どもクラブが設立され、生徒の 80%が子どもクラブの存在と目的を理解して活動に参加する。 ・子どもクラブリーダーの 80%が学校でのジェンダー平等が進んだと認識する。 確認方法：生徒リーダーへのアンケート、定期学校視察 ・対象１０校でジェンダー関連の章を含む学校開発計画が完成する 確認方法：学校開発計画
--	---